

(別添 4)

【鴻巣市】 1 人 1 台端末の利活用に係る計画

1. 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学び

教育DXの推進による新時代で活躍する のすっ子の育成

(1) 学びの変革

ICTの効果的な活用を推進し、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図り、新しい時代で求められる資質・能力を育成します。多様な教育的ニーズを要する児童生徒に学びの機会を提供し、ICT利用の前提となるデジタル・シティズンシップを醸成します。

(2) 指導の変革

教育現場において教職員は端末や先端技術を活用して、児童生徒の興味関心を高めます。

授業にICT、先端技術を活用して指導する能力を育成します。

2. GIGA第 1 期の総括

教育の情報化の実態調査比較数値が国、県平均と比較しても高い水準にあります。ソフト面については、教材研究や準備・校務におけるICTの活用、デジタル・シティズンシップ教育によるコンピュータやインターネットの安全利用を指導してきました。また、ハード面についても国、県と比較し高い水準に位置し、整備も進行してきたと捉えられます。

3. 学習者用端末の利活用方策

1 人 1 台の端末環境を引き続き維持することを前提とし、以下のように利活用していきます。

(1) 1 人 1 台端末の積極的な活用

児童生徒 1 人 1 台の学習者用端末の日常活用や学習活動について、3つのステップを経るものと捉えます（下図参照）。そして、各ステップ（ICTスキルの向上と児童生徒の実態等）に応じて、コミュニケーションの段階的な拡充と学習への応用を進め、利用範囲に応じた利便性を実感することで、操作習熟のための動機づけを高めます。

	ステップ1	ステップ2	ステップ3
段階	導入期	挑戦期	安定期
児童生徒の姿	今までにない教育環境となり、児童生徒の端末活用等への期待が高まり、意欲的に取り組みます。	端末の活用について理解し始め、若干の慣れが生じ、児童生徒自らが、積極的に様々な活用を模索し始めます。そのため、その活用に対する、多くの課題が発生します。	様々な課題を乗り越え、児童生徒の活用能力が向上し、学校としての端末の活用が確立します。そのことで、端末の日常利用が定着し、学習指導における活用もより円滑に展開できます。
円滑な推進のための方策	- 関係者（校内外）との調整をする - 迅速にトラブル解決を行う - 校内での情報を共有する - 学校の主体性を生かしつつ児童生徒の実態に応じた実践を検証する	- 多種多様な活用を整理し、制限をするのではなく、学校として向かうべき方向へ正す - 生徒指導上の課題との調整をする - 学校間での情報を共有する - 児童生徒の自己調整能力の育成を目指す	- 児童生徒へのICT活用能力の向上のため、持続的にその育成を目指す - 持続的に活用するために、校内及び学校間での秘訣や裏技を共有する - 学習指導において積極的に活用する - 積極的な外部機関との連携を行う
個別最適な学び (個人で深める学び)	【基礎習熟と単純応答タスク】 - ドリル学習・動画教材視聴 - カメラ・録音機能・ペン - 情報蓄積の習慣化 - キーボードトレーニング	【学びの道具としての強化】 - 検索機能、情報のクリッピング - ノートテイク・要約・表現制作 - 個人データマネジメント - ツールを用いた創作 - オンライン課題提出	【クラウド蓄積の編集・再構成】 - ある情報を最も効果的に伝える技法 - 学習計画・成果の蓄積 - ポートフォリオの編集
協働的な学び (双方向で行う学び)	【教員主導の一方向の使い方】 - デジタル連絡帳（教員発の連絡・資料配布） - ビデオ会議	【教員主導の応答的なやり取り】 - 学校からの指示、応答要求 - 課題割振、添削・返却 - 範囲を限定した、双方向の交流（チャット、校内SNSの参加） - クラウド協働作業、コメント添付、会議メモの作成	【学習者中心の自在なやり取り】 - 対外的プラットフォームコミュニケーション - クラウド・チームワーク - 課題等を効率的に進める

（２）個別最適・協働的な学びの充実

新しい時代で活躍するために「情報技術の利用における適切で責任のある行動規範意識（デジタル・シティズンシップ：Digital Citizenship）」に裏付けられた５つの能力が必須となります。学校教育において、日常的にICT機器を活用できる環境のもと、先端技術を活用し、教育の質を向上させることで、新しい時代で活躍するために必要な資質・能力を身に付けた「のすっ子」の育成を目指します。

◆ 知識構築・課題追及能力

知識・技能等の取得のためにデジタルツールを用い、様々な要因を吟味して収集し、それらを基にアイデアや理論を展開させ、自他にとって意義ある、答えと解決策を追求できる力。

◆ 論理的思考力

デジタルツールを活用して、データ収集、分析を行い、問題解決や意思決定を促すための方法や手順を開発できる力。

◆ 自己表現・伝達能力

視覚化・モデル化・シミュレーションのような様々なデジタルによって構成されたものを作成・活用して、自分の考えを効果的に表現、伝達できる力。

◆ 人間関係形成・課題対応能力

デジタルツールを用いて他者と繋がり、交流を通して相互理解と学びを深める力。また、集団で協働し、様々な観点から問題や課題を検討できる力。

◆ 自己プランニング・コントロール能力

問題や課題を特定して、それを解決するための過程を計画することにおいて、多様なテクノロジーを用いることができる力。また、解決できない課題に対して、寛容さや忍耐強く取り組む力。

（３）学びの保障

１人１台端末によって、ウェブ会議システム、授業支援ソフトが活用できるようになりました。教職員と児童生徒がつながることで学校と学校外をつなぎ、不登校や感染症等に対しても学びを止めない環境を整備します。